

# みやまの風

令和7年12月1日(月)発行

園長 津田 将美



寄 松田

カラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです↑

## 地域の環境を活かして

中津川沿いの澄んだ空気が、色とりどりの紅葉を際立たせ、その鮮やかな色彩が、目を楽しませてくれています。短い秋が終わりに近づき、気温が低くなると共に寄の景色もさらに彩を増しているようです。そんな素晴らしい自然環境の中、子どもたちは伸び伸びと生活しながら、遊び、学んでいます。

寄幼稚園では、今年度より園内研究会の研究主題に、「地域の環境を活かして」という文言を入れて、地域とのつながりに視点を当て研究を深めているところです。

文部科学省は「幼児教育の重要性・遊びを通した学び」の中で次のように述べています。

「幼児期は、『遊び』の中で周囲のヒト・モノ・コトに自ら進んで関わりながら、豊かで多様な体験を通して、様々な『学びの芽』を育てていく時期です。」

寄幼稚園では正に、自然環境だけでなく、地域の人や文化、行事などを活かした教材として「学びの芽」を育てることができていると感じています。

11月15日に行われた幼稚園公開日では、保護者の皆様、評議員さんが正に環境となり、子どもたちの意欲と主体性を引き出してくださいました。

「イヌやネコを登場させよう！」(配役)

「お席はこちらです。どうぞ！」(呼び込み役)

「お飲み物をどうぞ。」(ジュース屋さん)

「ポップコーンもどうぞ。」(ポップコーン屋さん)

「ぼくは、お客さんやくだよ。」(観客役)

映画館に出かけた経験からでしょうか、子どもたちは豊かにイメージを広げながら、観劇という環境を楽しみながら創り上げてきたようでした。観客役(?)の子もいる中、本当の観客にきていただけたことが、子どもたちの「本物」に近づけるエネルギーとなっているようでした。イヌやネコのダンスに加えて、それを操る子どもたちの笑顔、観客になりきって拍手や手拍子を送る観客役の子の生き生きとした姿、そしてこの日来園していただいた本物の観客のみなさんの嬉しそうな顔が、とても印象に残りました。

常に園にいるわけではない園長も、子どもたちの出し物に感動し、共に楽しませていただきました。

今年度は「川原遊びプログラム」をさらに発展させ、保護者の方の保育体験や小学校との交流にもつなげることができました。また、藍染め体験やロウバイの植樹など、寄ならではの環境を活かした活動も展開されています。今後も地域の環境を活かした保育を、子どもたちと共に進めていきたいと思ひます。

